

ROBERT DOISNEBAUD LA MUSIQUE PARIS

街角で偶然に——。



ロベール・ドアン《サン＝ジェルマン＝デ＝プレのジュリエット・グレコ》1947年

ROBERT DOISNEBAUD LA MUSIQUE PARIS

もう一曲——。



ロベール・ドアン《流しのピエレット・ドリオン》1953年

2021 2.5 FRI
3.31 WED
*会期中無休

写真家 ドアン 音楽パリ

開館時間 / 10:00 - 18:00 (入館は17:30まで)
 夜間開館 / 毎週金・土曜日は21:00まで (入館は20:30まで) ※金・土の夜間開館につきましては、変更になる可能性もございますので、予めご了承ください。
 主催 / Bunkamura、読売新聞社 協力 / アトリエ・ロベール・ドアン 後援 / 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本、J-WAVE 企画協力 / コンタクト
 ※状況により、会期・開館時間等が変更となる可能性がございます。最新情報はBunkamura HPにて随時ご案内いたしますので、ご来場の際は事前のご確認をお願いいたします。

美しい時代へ
 Bunkamura ザ・ミュージアム 東急グループ

入館料 (消費税込)	当日	前売
一般	1,500円	1,300円
大学・高校生	700円	前売は大高、 中小販売無し
中学・小学生	400円	

※学生券をお求めの場合は、学生証のご提示をお願いいたします。(小学生は除く) ※障がい者手帳のご提示でご本人様とお付き添いの方1名様は半額となります。(一般750円、大高350円、中小200円) 当日窓口にてご購入ください。 ※未就学児は入館無料

前売券 ※一般のみ。大学・高校生、中学・小学生は当日券のみの取扱い。
【販売期間】 2020年11月21日(土)～2021年2月4日(木)
【販売場所】 オンラインチケットMY Bunkamura (QRチケットのみ)、Bunkamura ザ・ミュージアム、Bunkamura チケットセンター
 ◎ ザ・ミュージアムのチケットは便利なオンラインチケット「MY Bunkamura」をご利用ください。お得な前売券のほか、当日券の購入も並ばず便利！ MY Bunkamuraで購入すると当日券が100円引き。

登録料・システム利用料無料 MY Bunkamura 検索



〒150-8507 東京都渋谷区道玄坂2-24-1

◎ JR線 / 渋谷駅(ハチ公口)より徒歩7分 ◎ 東京メトロ 銀座線、京王・井の頭線 / 渋谷駅より徒歩7分
 ◎ 東急・東横線・田園都市線、東京メトロ・半蔵門線・副都心線 / 渋谷駅(A2出口)より徒歩5分
 ※当館には専用駐車場がございます。東急百貨店本店駐車場をご利用ください(有料)。
 お問い合わせ / 050-5541-8600 (ハローダイヤル) HP / www.bunkamura.co.jp

Bunkamura ザ・ミュージアム
 Bunkamuraを支えるオフィシャルサプライヤー
 OMRON 信産島 KIRIN 大和証券グループ 東急グループ

開催記念講演会、来場者プレゼントなど予定しております。最新情報はホームページをチェック!

パリを愛し、パリに愛された写真家の音楽をテーマにした約200点を紹介!

フランスの国民的写真家ロベール・ドアノーは、パリを舞台に多くの傑作を生みだし、世界で最も愛され続けている写真家のひとりです。本展は、パリの街角にあふれるシャンソンやジャズなど様々な音楽シーンを題材に1930年代から90年代にかけて撮影された、ドアノー独自の音楽的感覚に富んだ作品約200点で構成されます。2018年末から2019年春にかけて、フランス・パリ19区にある“フィルハーモニー・ド・パリ”内の音楽博物館で開催され大好評を博した展覧会を基に、日本向けに再構成した巡回展がやってきます。

パリに暮らす“普通の人々”のきらめきに満ちた生活を目撃する

1 LA RUE

第1章 街角



《音楽好きの肉屋》1953年



《パリ祭のラストワルツ》1949年

3 BISTROTS, CABARETS

第3章 ビストロ、キャバレー



《ル・ブティ・サン=ブノワのマルグリット・デュラス》1955年

カメラ
ドアノーの愛機
「ローライフックス」
が日本初出展!



《レクリューズのパレバラ》1957年12月



《ボン・ド・クリメのジャック・プレヴェール》1955年

本展開催に寄せて

堀江敏幸

作家、フランス文学者、ロベール・ドアノー著書「不完全なレンズで」翻訳者

ドアノーの写真には、いつも楽音が隠れている。ポートレートや風景の一枚一枚にとらえられた軽やかなムーヴメントはもちろんのこと、場所や被写体や時代が変わっても、すべてがまるでひとつの組み写真のような流れを生み出す。そこにはほとんど天然とあって差し支えない、まわりを陽気にするいたずらっ子だけに許された笑みがあふれている。なんとこの微笑みの音楽! 本展には、シャンソンからオペラまで、音楽家たちが多く登場するのだが、歌わない時でさえ彼らは歌っている。シャッターを押す前にドアノーがいかなる言葉の指揮棒を振ったのか、想像してみよう。それはまた、プレヴェールに学んだ写真家の、書き手としてのきらめきに触れるまたとない機会となるにちがいない。



《セルフポートレート、ヴィルジュイフ》1949年

Robert Doisneau (1912-1994)

ロベール・ドアノー

パリ郊外のジャンティイに生まれる。自動車メーカー「ルノー」のカメラマンを経て、フリーとして活動を開始。『ヴォーク』誌や『ライフ』誌でファッション写真を始めとして多くの写真を発表、国際的に注目される。特にパリの庶民の日常をとらえた写真で高い評価を得る。現在でも世界各国で写真展が開かれ続けている。

JAZZ & GITANZ 4

第4章 ジャズとロマ音楽



《アーサー・キット、サン=ジェルマン=デ=プレ》1950年



《ジャンゴ・ラインハルト》1950年

6 OPÉRA

第6章 オペラ

《バレエ「カルメン」の衣装合わせ、ジジ・ジャンメルとイヴ・サン=ローラン》1959年



《レ・リタ・ミッコ》1988年10月13日

8 LES ANNÉES 80-90

第8章 80-90年代

日常生活の中で偶然出会う、小さな種のような瞬間をカメラに収め、それが人々の心の中で花開くことを思うと大変うれしい

—ロベール・ドアノー

シャンソン、オペラ、ジャズ、ロック…フランスを代表するアーティストの写真で巡る、パリの音楽散歩!



《イヴ・モンタン》1949年



《「トスカ」録音中のマリア・カラス、パテ・マルコーニレコードのスタジオにて》1963年

7 Maurice BAQUET

第7章 モーリス・バケ



《雨の中のチェロ》1957年